

平成 24 年度三重県被災建築物応急危険度判定実地訓練 実施結果

～三重県建築物震後対策推進協議会～

H25. 3. 1

1 概要

大地震が発生した後の二次災害を防止するために、被災した建築物の危険性を応急的に判定する被災建築物応急危険度判定（以下「判定」といいます。）の実地訓練を、県、市町及び建築関係団体で構成する三重県建築物震後対策推進協議会が、県内の被災建築物応急危険度判定士（以下「判定士」といいます。）等を対象に、実物の建築物を使用して行いました。この訓練では、独立行政法人建築研究所とのタイアップにより、全国の都道府県では3例目となるタブレット型端末を利用した「応急危険度判定支援ツール」を使用しました。

- | | |
|------------------|--|
| (1) 実施日時 | 平成 25 年 3 月 1 日（金）10:00～16:00 |
| (2) 訓練施設
説明会場 | 幸丘鳥羽市営住宅（鳥羽市幸丘地内）
鳥羽商工会議所会館（鳥羽市大明東町 1-7） |
| (3) 参加者 | 県職員判定士等 7 人、市職員判定士等 13 人、
民間判定士 12 人、その他 13 人 |
| (4) 主催 | 三重県建築物震後対策推進協議会 |

2 目的

万一の際、判定士が、円滑かつ的確に判定を実施できるよう、判定技術及び判定活動に対する意識の向上を目的としています。

3 内容

- (1) 訓練内容
- 午前中、調査表の記入方法、タブレット型端末を利用した「応急危険度判定支援ツール」等の説明を行った後、午後、3グループに分かれて、予め加圧等で加工し、擬似的に被災状況を再現した解体予定の市営住宅を使用して判定を行うとともに、演習問題等の机上訓練を実施しました。
- その後、各判定士の判定結果を集計し、講評等を行いました。



(2) 訓練日程

時刻	項目	内容
10:00	集合	鳥羽商工会議所会館 3階 かもめホール
10:00～11:10	開会・事前説明	挨拶、判定対象、調査票記載方法、留意事項等の説明
11:10～12:00	判定ツール説明	独立行政法人建築研究所から iPad を利用した「応急危険度判定支援ツール」に関する説明
12:00～13:00	(昼食休憩)	(以下、班ごとに分かれて訓練実施)
<スケジュール例>		
13:00～13:40	演習問題・解説	写真及び図面による机上判定
14:00～14:40	A棟及びB棟判定	解体現場にて判定活動(通常の判定後、タブレット型端末を使用した判定を実施)
15:20～15:40	区割り図作成	鳥羽市の判定区割り図を各判定士が作成
15:40～16:00	講評・アンケート	訓練に関する講評、アンケート記入等
16:00	終了	

4 実施結果

(1) 概要

当初事務局の判定結果に対して、概ね各班の判定結果は一致したが、B棟において落下危険物の見方の影響で、一部異なる結果となったチームもあり、判定の難しさが浮き彫りとなった。

(2) 結果詳細

		A棟	B棟
各チーム の結果	「危険」	15 (事)	14
	「要注意」		1 (事)
	「調査済」		

※ (事)：事務局の判定結果

(3) アンケート

参加者全員に記入いただいた結果によると、内容、運営等に関して、好評を得られたほか、本訓練は、判定士の技術等の向上に有効との回答でした。

● 全体の時間配分について

良い	どちらかといえば良い	普通	どちらかといえば悪い	悪い	計
18	7	8			33
55%	21%	24%			100%

● 訓練による判定士の技術・意識の向上について

役立つ	どちらかといえば役立つ	普通	どちらかといえば役に立たない	役に立たない	計
26	5				32
84%	16%				100%

(4) 報道

当日は、CBCの取材が入り、当日夕方にその模様が放送されるとともに、翌日の読売、毎日及び伊勢新聞において、記事が掲載されました。



5 今後の対応について

参加者アンケートの項目で、実施頻度について問うたところ、本訓練へのニーズは高い結果でした。

しかしながら、訓練の実施のためには、適切な供試体と関係各者の協力が不可欠であるため、市町等の協力の基、今後も実施したいと考えています。